

授業科目名		対象学科・専攻	年次	期別
生活科指導法 Teaching Methods of Life Environments		児童教育学科 初等教育学専攻	2年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員	担当形態
講義	2	選択	川上 認	単独

科目	施行規則に定める科目区分又は事項等
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

○コアカリキュラム：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

全体目標：当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

（1）当該教科の目標及び内容  
一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。  
到達目標：1）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。  
2）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。  
3）当該教科の学習評価の考え方を理解している。  
4）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

（2）当該教科の指導方法と授業設計  
一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。  
到達目標：1）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。  
2）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。  
3）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。  
4）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

【全体目標及び概要】	
<p>「教材」が「学習体験や活動を左右する」ことの認識を深め、生活科における「教材研究の視点」や「教材開発の必要性や留意点」を理解し、身近な社会や自然の中にある素材の教材化と効果的活用方法を身に付ける。 生活科における年間指導計画や単元計画並びに指導案作成について理解する。 生活科における体験的な活動の実践を通してながら指導の在り方を探求する。 生活科における評価の在り方を理解する。</p>	
【一般目標及び到達目標】	コア目標対応
（1）生活科教材の役割の重要性を理解する 一般目標：生活科の授業における教材選択の重要性と教材化の意味を理解する 到達目標：1）生活科授業における教材の大切さを理解する	(1)-1)、2)
2）素材と教材の意味の違いを理解する	(1)-4)
3）効果的な教材選択や教材の授業への位置づけを理解する	(1)-4)、(2)-2)
（2）学習内容の違いによる効果的な教材化の方法と指導の在り方を理解する 一般目標：生活科に適した教材を活用した指導事例から教材化の方法を理解する 到達目標：1）直接的な体験や活動の教材化を理解する	(1)-2)、4) (2)-1)
2）ICT等の活用や多様な表現活動を展開する指導の在り方を理解する	(1)-2)、(2)-2)
（3）生活科の指導計画の立て方を理解する 一般目標：生活科の指導計画作成の方法を理解する 到達目標：1）年間指導計画・単元計画の作成の方法を理解する	(1)-1)、(2)-3)
2）単位時間の指導案の作成の方法を理解する	(2)-3)
（4）生活科の評価の仕方を理解する 一般目標：生活科における評価の仕方を理解する 到達目標：1）評価規準を作成することができる	(1)-3)、(2)-4)
2）多様な評価方法を身に付ける	(2)-4)

回数	生活科指導法 授業内容 【川上 認】	到達目標の番号	コアカリキュラム対応項目
1	生活科の授業における教材の特質性を説明できる	(1) - 1)	(1)-1)、2)
2	教材化の意味・意義を理解し、指導計画への生かし方を学ぶ	(1) - 2) (1) - 3)	(1)-4)、(2)-2)
3	① 人と関わる活動の教材化について学ぶ	(2) - 1)	(1)-2)、4) (2)-1)
4	② 飼育栽培活動の教材化について学び、体験活動する	(2) - 1)	(1)-2)、4) (2)-1)
5	③ 探検活動の教材化について説明できる	(2) - 1)	(1)-2)、4) (2)-1)
6	④ 遊びの教材化について学び、体験活動する	(2) - 1)	(1)-2)、4) (2)-1)
7	⑤ ものづくりの教材化について学び、教材を作成する	(2) - 1)	(1)-2)、4) (2)-1)
8	⑥ 表現・イベント活動の教材化について学ぶ	(2) - 1)	(1)-2)、4) (2)-1)
9	⑦ 交流活動を実践し、動画や静止画として記録する	(2) - 1)	(1)-2)、4) (2)-1)
10	町探検の振り返り学習時にタブレットを活用して発表活動をする	(2) - 2)	(1)-2) (2)-2)
11	映像や音声機器等、多様な表現活動を図った指導事例を検討する	(2) - 2)	(1)-2) (2)-2)
12	地域実態に即した生活科の年間・単元計画の作成事例を検討する	(3) - 1)	(1)-1) (2)-3)
13	生活科の指導案を作成し、模擬授業を行なう	(3) - 2)	(2)-3)
14	評価基準と評価規準の違いについて学ぶ	(4) - 1)	(1)-3) (2)-4)
15	多様な評価方法を理解する	(4) - 2)	(2)-4)
定期試験	実施する		
成績評価方法	授業態度（関心・意欲・態度）50% 定期試験（知識）50%		
テキストおよび参考文献	『小学校指導要領（平成29年告示）解説 生活編（平成29年7月 文部科学省）』 東洋館出版 『生活科教材研究』 山口短期大学		
メッセージなど	小学校低学年児童が喜ぶ直接的な体験活動の実践と指導方法の体得が主な授業内容である。具体的な教材との触れ合いを大切にする。		

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 生活科授業における教材の大切さを理解する	ほぼ完璧に教材の大切さを理解している	十分教材の大切さを理解している	おおむね教材の大切さを理解している	まったく理解できていない	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-2) 素材と教材の意味の違いを理解する	ほぼ完璧に意味の違いを理解している	十分意味の違いを理解している	おおむね意味の違いを理解している	まったく意味の違いを理解していない	定期試験 (知識・理解)	20%
(1)-3) 効果的な教材選択や教材の授業への位置づけを理解する	ほぼ完璧に教材の授業への位置づけができる	十分に教材の授業への位置づけができる	おおむね教材の授業への位置づけができる	まったく教材の授業への位置づけができない	授業態度 (関心・意欲)	10%
(2)-1) 直接的な体験や活動の教材化を理解する	ほぼ完璧に体験活動の教材化ができる	十分に体験活動の教材化ができる	おおむね体験活動の教材化ができる	まったく体験活動の教材化ができない	授業態度 (関心・意欲)	10%
(2)-2) ICT等の活用や多様な表現活動を展開する指導の在り方を理解する	ほぼ完璧にICT等の活用の在り方を理解している	十分にICT等の活用の在り方を理解している	おおむねICT等の活用の在り方を理解している	まったくICT等の活用の在り方を理解していない	授業態度 (関心・意欲度)	10%
(3)-1) 年間指導計画・単元計画の作成の方法を理解する	ほぼ完璧に年間・単元計画の作成方法を理解している	十分に年間・単元計画の作成方法を理解している	おおむね年間・単元計画の作成方法を理解している	まったく年間・単元計画の作成方法を理解していない	レポート (知識・理解)	10%
(3)-2) 単位時間の指導案の作成の方法を理解する	ほぼ完璧に単位時間の指導案が作成できる	十分に単位時間の指導案が作成できる	おおむね単位時間の指導案が作成できる	まったく単位時間の指導案が作成できない	レポート (思考力・判断力等)	10%
(4)-1) 評価規準を作成することができる	ほぼ完璧に評価規準を作成することができる	十分に評価規準を作成することができる	おおむね評価規準を作成することができる	まったく評価規準を作成できない	レポート (知識・理解)	10%
(4)-2) 多様な評価方法を身に付ける	ほぼ完璧に評価方法を身に付けている	十分に評価方法を身に付けている	おおむね評価方法を身に付けている	まったく評価方法を身に付けていない	レポート (思考力・判断力等)	10%